

5 月 号

昭和60年5月1日
 編集 / 発行
 岡崎市教育委員会

デージーの輪ができる
 パンジーの輪が広がる
 校庭が美しい花で彩られる

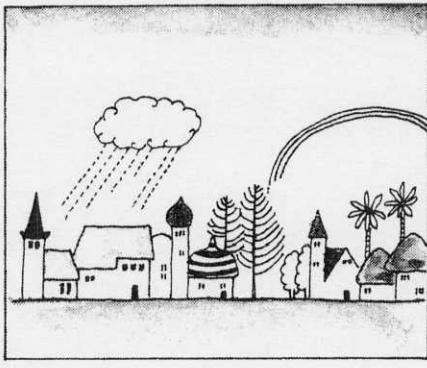
二十年間の「花いっぱい運動」
 春・秋に実を結ぶ思いやりの心
 小さな一つの芽を大切にし
 集団の花の持つ美しさを感じ
 生命のすばらしさを学ぶ子ども

花育ての心が高まり
 心の輪がさらに広がる



(輪のシンボル・メイン花壇—細川小)

「人生朝露の如し」「人生は風灯石火の如し」「蜉蝣の一期」、いずれも人の一生がいかにたまゆらの、はかないものであるかを表す諺であることは、御存知の通り。それにも拘らず、人間誰しも不老長寿に憧れ、一日でも健康で長生きしたい欲望に変わりはない。秦の始皇帝や、ソ連のスターリンらが大規模な研究をやったが、結果的には不老長寿の妙薬も秘訣も手中にすることはできなかった。



日本古代史をそのまま信用すれば、応神天皇以前の天皇はほとんど百歳以上、その後も古事記によれば、応神天皇百三十歳、雄略天皇百二十四歳とか。ナンセンスとも考えられるが、公害も疾病も皆無の清らかな自然環境の中で生命ということになれば、あながち否定もできない幻想にかられる。いずれにしても今の世の中、生物学的寿命は病気をさなければ、百二十〜百五十歳くらいまでは可能

であろうとされている。現に世界一の長寿者、泉重千代さんは百二十歳に手が届こうとしている。近い将来、癌、脳卒中、心臓病が克服されれば、平均寿命も男一・三歳、女一〇・九歳延長し、それぞれ八十五歳、九十歳となることが予想される。

愛知県下に住む百歳以上の老人のうち病気でない健康体の四十七名についての大名基督教山田弘三先生の調査によれば

— 教育随想 —

長 寿

後 藤 朋 美

ば、(一) 男一に対し女四〜五の割合で圧倒的に女性が多い。(二) 心・肝・腎臓、高血圧、糖尿病などいわゆる成人病にかかった人で百歳以上は皆無。(三) 家系、遺伝に極めて関係が深く、両親のうち少なくとも一方が八十歳以上まで生きた者が七十六パーセントを占める。(四) 体格的には中年のころ、小柄以下、肥満であった人はほとんどない。(五) 食事、嗜好

動物性脂肪の制限、酒は二合以下、煙草は二十本以内など。その他ごまごまと私などには耳の痛い結果がでている。また東北大学名誉教授藤正二先生は、七十歳以上を長寿者として全国的に実地調査を行い、長寿に最も深い因果関係のあるのは長年にわたる食生活であるという結論を得た業績は高く評価されている。

ところで、人間生まれてから一〜二年の間に脳細胞の数は百四十億にもなるといわれる。いかに精巧なコンピュータといえども到底及ばないが、種々な教育、当人の努力などにより、どれだけ脳細胞が能率よく働くかは千差万別である。特筆すべきことは、他の臓器の細胞は絶えず入れ替わっているのに、脳の神経細胞と心臓の筋肉細胞とは生まれてから死ぬまで替わらない点である。つまり、生命を支配する脳と心臓とに一番早く老化現象が起りやすいとは皮肉な話である。従って、老化現象が余り顕著にならない二十歳半ばまでに、学校教育や運動を完遂するよう頭も心臓も鍛えておかないと手遅れになる。脳神経細胞は老年になると毎日数千個ずつ消失していき、脳萎縮が一定の限界を超えると、いわゆる「ボケ老人」となるわけである。「老いてますます壮ん」など医学的には考えられないことである。最早手遅れとはいえず、健康百歳に多少なりとも近づこう、自分なりの養生に留意したいと考える昨今である。

た人はほとんどない。(五) 食事、嗜好については、菜食、良質の蛋白質の摂取、

甘言苦言

礼儀作法

六名小学校長
山本 昇

技術よりこころ

「おはようございます。大きな声、小さな声。正しいことば、あいまいなことば。立ち止まる者、歩きながらの者。頭を下げる者、つつ立ったままの者。」

職員室での職員、校庭での子ども。朝のあいさつも種々様々です。

「おはよう」「こんにちは」などのあいさつは、もとは相手を祝福し励ます意味のことばだと言われます。また、あいさつをするときおじぎをするのは、お互いに敵意のないこととの表現で、人間どうしのこころの結びつきの出発点です。

あいさつをはじめとする礼儀作法の乱れは、根本にある精神が忘れられ、技術だけがびこっているためではないかと思われまます。科学が進歩し、世の中が変化していつても、心身ともに豊かに生きていくためには、礼儀作法が必要です。礼儀作法をきさえるのはこころです。

甘言苦言

礼儀作法



武者幟づくり

平岩信太郎 氏

五女ありて後の男や初幟 子規
男の子の出世と健康を祈る端午の節句。
家々では幟を立て、軒に菖蒲をふき、武
者人形を飾り、ちまきや柏餅を供えて祝
う。

現在、市内には武者幟を作っている店
が二軒ある。平岩さんはその一軒であり
明治三十七年創業の老舗である渡辺要市
商店に勤めている。

「わしがこの店に入ったのは、尋常高等
小学校を出てすぐでした。それからず
っとやっています。ただ、戦時中はぜ
いたく品ということで、製造が禁止さ
れましてね。その間は軍需工場で働き

ました。修業は昔のことですから、そ
りやあ厳しかった。朝の五時に起きて
寝るのは十一時を過ぎていました。げ
んこつはしょっちゅうでしたよ。口で
教えたりなんかしなかったです。要す
るに見て覚えるということなんです。」
十七、八の時、左官か大工になろうと
店から逃げ出したという。結局、母親
が心配するし、先代の奥さんが説得に
来てくれるやらで、また店に戻った。

「武者幟の絵はいろいろありますが、わ
しが一番好きなのは太閤秀吉と川中島
の合戦、それに富士の巻き狩り。絵の
雰囲気は何となくいいんですよ。子
思う親の気持ちはいつの時代も同じで
景気不景気というのはあんまりないん
です。特に忙しいのは三、四月ですね。」
幟は明治ごろまで大半が紙製であつた。
それが木綿製に変わり、今ではほとんど
が化繊製のものになっている。

「幟の勝負どころといったら、絵の輪郭
ですね。輪郭がしっかりしていないと
絵が死んでしまう。それとやっぱし色
づけ。今は色がよくなってきましたが
昔は配合しなくてはならないし、色に
つやがなかったですよ。」

平岩さんは毎年、五月の空を楽しみに
している。自分の製品は一目でわかると
いう。

「自分の作った幟を見つけた時は本当に
嬉しいもんです。人の作品の場合は自
分のと比較して励みになります。先代
がよく言っていました。職人というの

は利益を最後にして、いいものを作る
ことが大事だとね。」

平岩さんもやはり職人だと思ふ。言葉
で飾らない特有の清々しさがある。顔に
は仕事に対する自信と誇りが刻みこま
れているように見える。

「今、この道一筋にやっつけてきてよかつた
と思つてますよ。特に三年前、伝統工
芸の功労賞をいただいた時は、本当に
嬉しかったですね。これまでの苦勞も
吹っ飛んでしまいました。何にしても
わしも七十二歳になりました。何にしても
継者にわしの持つていたものをみんな
伝えておきたいと思つてます。」

生年月日 大正二年七月二日
住所 福岡町字二後田十の三
渡辺要市商店内



形式的な指導だけでなく、「道徳」の
時間などで、価値の内的的自覚を通して
こころを育て、生きたあいさつができる
ようにしたいものです。

教師としてのしつけの文化

三島小学校教頭

柴田 和一

戦後、しつけがなくなつた、折角築い
てきた社会に対する規範が崩れた、と嘆
く声が高い。それは、時代の進展ととも
に、経済的・社会的平等が急速に起こり
それぞれの階層・社会でのしつけ文化が
色々な形で出てきたことにあると思われ
る。

学校社会においても、今日、このしつ
け文化の混乱が見られるところである。
例えば、服装をとりあげてみても、出勤
時においてジャージ姿であるとか、トレ
ーナー姿がみられることである。これは
対象が児童・生徒で、活動しやすいく
ことも知れない。また、礼儀作法につ
いても同じようなことが言える。明快な挨拶
を欠くとともに、交わすことが少なく
なつてきている。特に若い世代にこのこと
が言えるのではなからうか。

どこの社会においても、対人関係は大
切である。ことに学校社会は、児童・生
徒との対人関係である。日常の無自覚的
な姿での振る舞いが、知らず知らずのう
ちに重要な感化を与えている。服装・言
語・動作ともに、教師としてのしつけの
文化を、今一度考えてみたいものである。

おかざき 世界子ども 美術博物館



岡崎地域文化広場

五月四日オープン!

子どもたちの創作意欲と無限の才能を引き出すことを願って、愛知県と岡崎市が共同で推進してきた「岡崎地域文化広場」がこのほどめでたくオープンした。

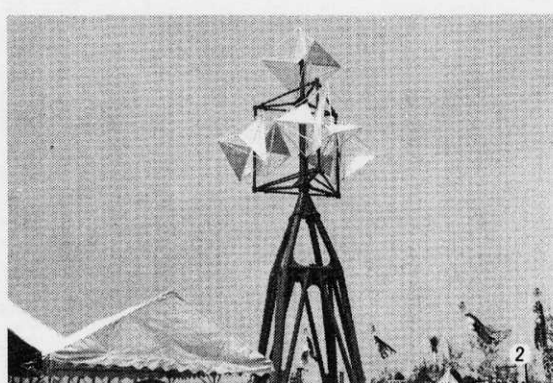
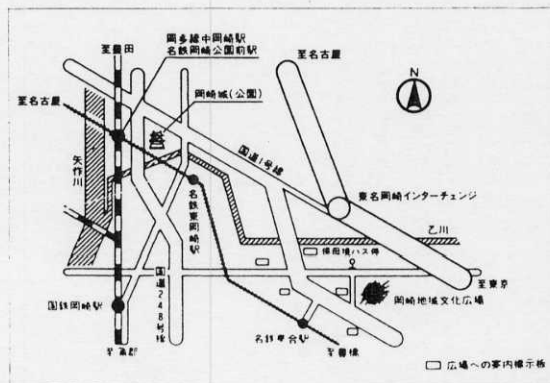
当広場は、「おかざき世界子ども美術博物館」と「親子造形センター」を主な施設とし、その周辺に「芸術の森」「展望の丘」「野外ステージ」「はなのき広場」などを施している。また、その中心となる「ふれあい広場」には、二十一世紀を担う子どもたちの夢と希望を象徴し



た巨大なモニュメントが建てられ、至るところ、夢にあふれた設計がなされている。

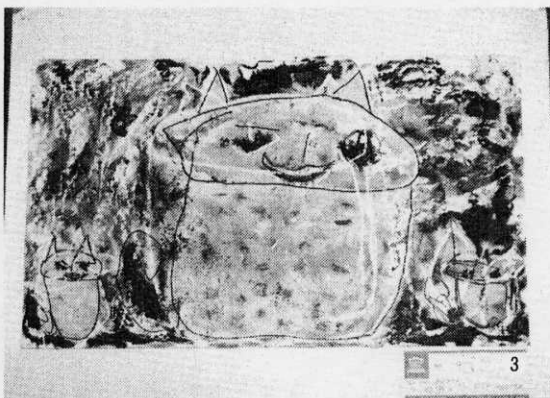
本館右側「おかざき世界子ども美術博物館」は、世界の子どもの絵や造形作品、伝承的玩具・民芸品、世界の教科書、岡崎の子どもの絵などが展示されたSEEゾーン（第一～第三展示室）とコンピュータによる作画・デザインなど、子どもたちの創作意欲の高揚を図ったT H I N Kゾーン（企画展示室）に分かれている。展示されている作品は百点ほどであるが、すでに世界中から作品が収集され、その数は、児童画八二二一点（九四か国）玩具・民芸品一三四九点（六三か国）図書一七二点（三五か国）（昭和六十年四月五日現在）に上っている。また、隣接する「親子造形センター」には、現在「ピカソ展」が開催されているが、六月十六日からは、子どもたちの手で絵を描いたり、物を作ったりして、創造力育成の場となる予定である。

世界にも類を見ない地域文化広場のオープンによって、岡崎が文化の一大拠点となるのさほど遠いことではない。

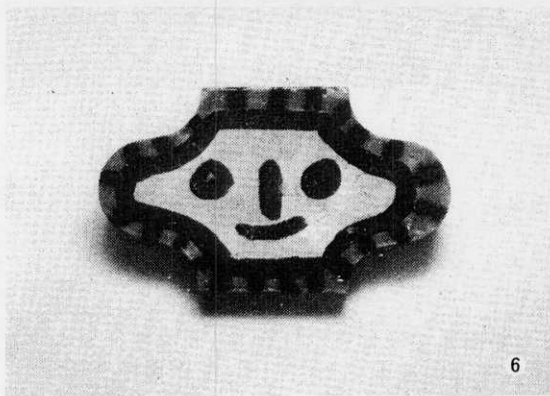




4



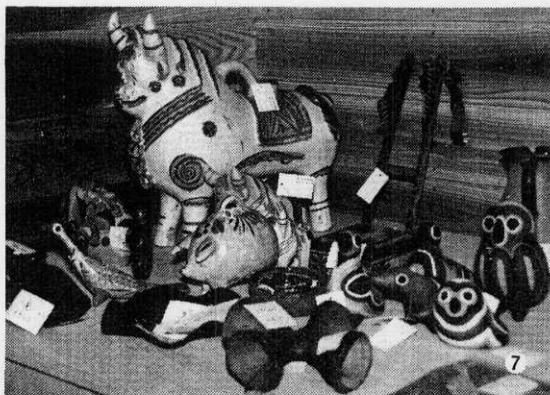
3



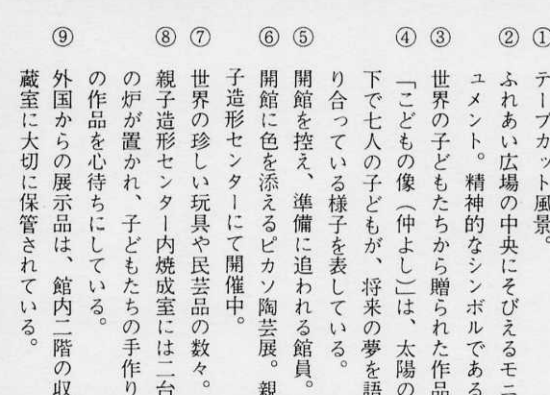
6



5



7



8



9

- ① テープカット風景。
- ② ふれあい広場の中央にそびえるモニユメント。精神的なシンボルである。
- ③ 世界の子どもたちが贈られた作品。
- ④ 「こどもの像(仲よし)」は、太陽の下で七人の子どもが、将来の夢を語り合っている様子を表している。
- ⑤ 開館を控え、準備に追われる館員。
- ⑥ 開館に色を添えるピカソ陶芸展。親子造形センターにて開催中。
- ⑦ 世界の珍しい玩具や民芸品の数々。
- ⑧ 親子造形センター内焼成室には二台の炉が置かれ、子どもたちの手作りの作品を心待ちにしている。
- ⑨ 外国からの展示品は、館内二階の収蔵室に大切に保管されている。

黒板日記

竜谷小 神尾 房江

つづることをおつくりがらむしる楽しいという子に育てたい。学習の中で指導はもちろぬ毎日の積み重ねの習慣化がだいじである。

学校生活に慣れて来た二年生、ちよこちよこいたずらが出始める。放課になると、黒板に落書きをしてよごしたり、チョークの無駄遣いをする。そこで、有意義に黒板を使わせようと考え、日記発表の場として黒板日記を始めた。一年生から日記を続けてはきている。毎日検閲をし、

○印やほめ言葉、シールはり、さらに、時々、口頭発表でと、



意欲を継続させてきたが、黒板日記で新しい称賛の場を与えれば、書写能力も高まる。一石二鳥をねらってみた。毎日二人ずつ交替で座席順に書く、みんな自分の番がいつ来るかがわかる。交通指導日の二月二十日、始

業一時間前に道路に立っている、向こうから週番の六年生の中に一人小さい子が登校して来た。よく見ると、二年生のN男。「どうして、早く来たの。」と聞くと、

「黒板日記の当番だもん。」

とはりきって答えた。また、T子は腹痛で調子が悪いので、母親が休むよう勧めたそうだが、黒板日記の当番だから休むと抜かされるからいやだと言って、がまんして登校したとのことを後になって母親から聞いた。

教師は、ぼんやりしていても子どもたちは楽しみにし、指折り数え、当番の日を待っている。

朝の会が始まる前に書き上げ、朝の学習後の五分間で共同推敲をする。方法として本文は作者が読み、意見を聞く。作者は、ちび先生になったつもりで得意である。話し合いは、良いところをほめる。直したいところは三点までとし、意欲をなくさぬよう建設的な意見を出させる。

だから、この時はとてもものびのびと自主性を発揮する。

こうして、見る目、聞く耳、考える力、記述法、原稿用紙の書き方、書写能力も自然に身についてきた。特に漢字能力が高まり効果があった。

落書きがなくなり、毎日新しい文章が生まれてきて、楽しい黒板日記である。



教師の一言

南中 野村 広治

終了式を間近に控えた、三月二十日のことである。

「先生、Sさん転校するでしょう。お別れ会やってあげる。」

いつもは、何かと私の言動に對して反発の多いA子、B子、C子が、しおらしくそう聞いてきた。これは妙だぞと思ひ、「そうだなあ、今、通知表は書

かないかんし、一番忙しい時期だからなあ。どうしようかなあ。」

と生半可な返事をする、

「あんまりやる気ないんでしよう。」

「ほらみんな。やっぱあ。」

と、お互いに相づちを打つ。

「日君のときはやってあげたでしょう。Sさんもやってあげ

なきやかわいそうじゃん。ほ

いだもんで、お別れ会の時間をちようだい。」

「よし。それじゃ、終了式が終

わつてから、学級指導の時間

が一時分あるから、その内の

四十五分あげよう。」

こんな問答が交わされ、Sさ

んのお別れ会をやることになつ

た。翌日、また例の三人娘が職

員室に入つて来て、

「わたしちみんでアルバム

を買つたじゃん。ほいで、S

さんに先生からもプレゼント

してあげると喜ぶと思うけど。先生も忙しそうだから、わたしたちが買って来てあげる。」

三人娘の積極さに感激し、気前よく千円を渡した。

終了式の朝、またまた三人娘が相談しに来た。D男が、Sさ

んにお別れの言葉を言ってくれ

そうもないから説得してほしい

ということと、ゲームの時男子

生徒が協力的にやってくれるよ

うにしてほしいということだつ

た。快く引き受け、さつそくD

男を呼んで話をした。

お別れ会が始まると、会もス

ムーズに流れ、お別れの言葉を

かわす時、バックの音楽の効果

もあつてか、多くの女子生徒が

泣いていた。私にとつてもうれ

しい反面、悲しい光景だった。

後日、A子をつかまえ、積極的

にやる気になったわけを聞くと

先生の「やろうよ」という一言

を待っていたという。



お知らせ

コスミレ



『ハートピア岡崎』の開設

登校拒否児童・生徒の解消に

去る四月二十二日、岡崎市上衣文町地内の「働く者の山の家」内に「ハートピア岡崎」が開設された。

目的は、市内小中学校の児童・生徒のうちで、現在登校拒否をしている者、あるいはその傾向にある者及びその保護者等に対して、学校教育との有機的な連携のもとに適正な相談、助言、指導を行い、児童・生徒の学校復帰を図るとともに学校教育の援助に寄与するものである。

事業内容としては、(1)児童・生徒が登校を拒否する要因を究明し、学校生活への適応性を高めるための相談、助言に関する事。(2)児童・生徒が登校を拒否する起因を解消するために必要な措置に関する事。(3)児童

【寄贈刊物・資料等】

- ◆樹人 — 教師の記録 — B 5 一五九ページ 大樹寺小
- ◆教頭研修 小中学校教頭会 B 5 四二ページ
- ◆基礎・基本をふまえた学習指導法の研究 三島小 B 5 七〇ページ

◆五十九年度指導員訪問記録

- ◆版印刷 教科指導員会
- ◆上地つ子 第二号 上地小 B 5 一五七ページ
- ◆ふれあい 第十一集 B 6 一一〇ページ 教務主任会
- ◆精一杯 — 部活動 — 竜海中 A 6 三九ページ

昭和六十年年度 研究発表校 (本発表)

- ▽%・矢東小 — 「確かで豊かな表現力を伸ばす指導」 — 国語科を中心として —
- ▽%・常磐小 — 「正しく読む — 音読を通して物語文を読む — 正しく計算する」 — 数の概念を確かにし、筋道を立てて考える。
- ▽%・美川中 — 「授業の活性化をめざす視聴覚教材の利用」
- ▽%・六ツ美中 — 「生活を見つめる六ツ美の子をめざして」 — 文章表現力を育てる作文指導 —
- ▽%・南 中 — 「基本的生活態度の徹底をはかり、活力ある生徒の育成をめざす生徒指導」
- ▽%・六名小 — 「道徳の実践力を育てる道徳の授業」 — 道徳的価値を主体的に自覚させる授業過程と指導法 —
- ▽%・広幡小 — 「授業 — 構造と展開と —」

◆矢中のあゆみ

- B 5 六八ページ
- ◆教室日記 A 12 三二ページ
- ◆あおい 第三十四号 葵 中 A 5 一〇一ページ
- ◆本との対話 第九号 美川中 新書判 一〇一ページ

- ▽%・美合小 — 「たくましい子どもを育てる授業」 — 国語・算数・道徳で意欲と理解力を高めることを通して —
- 【中間報告】
- ▽%・矢作中 — 「何事にも意欲をもって取り組む生徒を求めて」 (生徒指導)
- ▽%・三島小 — 「基礎・基本をふまえた効果的な授業の展開」 (学習指導)
- ▽%・上地小 — 「心豊かに力いっばいやる子の育成」 (道徳)
- ▽紙上報告・新香山中 — 「自己規制力を高める進路指導(進路指導)」 (その他の発表)
- ▽%・竜美丘小 — 「野外学習」
- ▽%・連尺小 — 「県図書館教育研究大会」

◆昭和六十年年度

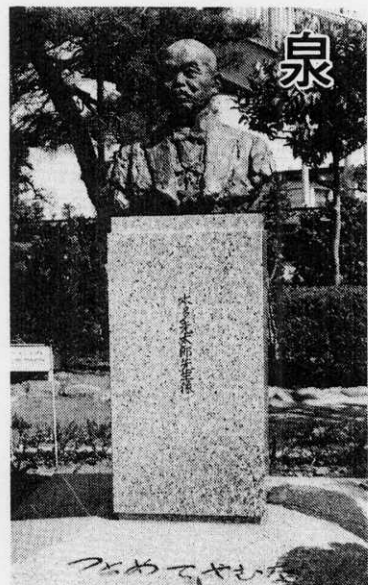
- 岡崎市小中学校長会役員
- 【小中学校長会】
- ▽会長 — 内田松夫(梅園小)▽副会長 — 山本昇(六名小)天賀真一

【中学校長会】

- ▽会長 — 山本昇(六名小)▽副会長 — 細井浩平(三島小)柴田清(根石小)▽監査 — 角谷米三(男川小)▽庶務 — 伊豫田参吉(広幡小)▽会計 — 鳥山幸夫(矢北小)▽会計補佐 — 大山保(常南小)
- 【小学校長会】
- ▽会長 — 山本昇(六名小)▽副会長 — 細井浩平(三島小)柴田清(根石小)▽監査 — 角谷米三(男川小)▽庶務 — 伊豫田参吉(広幡小)▽会計 — 鳥山幸夫(矢北小)▽会計補佐 — 大山保(常南小)
- 【中学校長会】
- ▽会長 — 大賀真一(葵中)▽副会長 — 富田丈三郎(竜海中)鈴木和夫(甲山中)▽監査 — 星野美(東海中)▽庶務 — 荻野卓郎(矢北中)▽会計 — 鈴木義治(矢作中)

※四月号の訂正
新任教員 — 葵中 — 小林秀樹

泉



岡崎市大和町

本多光太郎先生像

はなたらしの光さん……。本多光太郎博士の少年時代のエピソードは学校ぎらいの少年たちに自信を持たせ、「努力」「つとめてやむな」の言葉は、勉学に励む生徒たちを勇気づける。

本多光太郎博士は明治三年新堀町で生まれ、妙源寺の桑子学校（矢作南小学校の前身）に通った。有名な劣等生であったという。一旦、学問を志してから人は並み外れた熱意と根気で、鋼鉄の父と呼ばれるほどの世界的な学者となり、晩年は東北大学総長を務めたという人である。出身校、矢作南小学校の正門を抜けると右手の植え込みの中

に、校庭を向いてにこやかにほほえみかける博士の像が建っている。昭和三十三年十月、本多博士顕彰会と市で建てたブロンズ像である。

昭和三十三年は、国の理科振興費支給を受けて岡崎市が独自に科学教育振興費を支給し始めて二年目。科学教育が巷に叫ばれ、各校に岩石園・資料室・科学館などが教師の自作で作られた始まった頃。この翌年には矢作南小学校が市内初のソニー理科振興論文の最優秀賞を受賞、やがて市内にソニーブームがわきおこるのである。光太郎博士はいわばその火付け役であった。

●カ ッ ト 葵 中 鈴 木 孝 司

この本を

- * 生命探検 田原総一郎 ￥900
文芸春秋
- * 尾瀬山小屋三代の記 後藤 允 ￥430
岩波新書
- * 愛しき者へ上・下 中野 重治 各￥1800
中央公論社
- * 子どもが見えていますか 村上 義雄 ￥1300
春秋社

- * 夜郎自大 扇谷 正造 ￥380
角川書店
夜郎と呼ぶ小民族が勇武に傲り、漢に攻め入って逆に滅ぼされた。書名はこの故事になぞらえて若いジャーナリストの勉強不足を戒めた諫言である。
著者はもちろん当代一流の博学多才の知識人。ふところも広ければ底も深い。収録されているエッセイや講話は、教師生活にもあてはまるものが多い。
各作品の要約を初めに掲げたり、注も極めて親切に記したり、筆者の心づかいがまたすばらしい。

おかざき世界子ども美術博物館が開館した。未来を託す子どもたちに、感動と創造する力が育つことを願ったこと。館内には世界各地から集められた絵・教科書・暮らしの道具などが整然と展示され、大切な資料となっている。子どもたちの間に芸術の輪が広がることを願ってやまない。

尺貫法はいつの時代からあるのだろうか。おそらく人間の文化の歴史とともに考えられるようになったのであろう。ものさしは社会の秩序を保つための最も基本的なものである。このものさしも、あまり律義に過ぎては、杓子定規な人間で冷たいし、この匙加減こそ、教育のむずかしさでもある。

シオ スア

朝もやをつけて、すがすがしい新入生の声が聞こえる。
不安と緊張に満ち満ちた一か月が過ぎ、しだいに母校の色になじんでいく。
さあ、これからだ。君たちの個性と意欲がより一層の光彩を放つのは。
大いに羽ばたけ！
そして、大いに伸びよ！

鋭い目が原稿に注がれる。割り付け、推敲と進む。勤務後の編集会、時に睡魔が襲う。でも、皆、真剣であり、無言の時が過ぎる。
校正も、三校までと完璧をめざす。これら取材・編集の中で学ぶことは多い。さて、マンネリ化に注意し、内容の充実に努めているが、どうであろうか。